

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500316		
法人名	(株)イズミ		
事業所名	グループホーム笑顔の泉(Aユニット)		
所在地	愛知県春日井市下条町2丁目1-9		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&Jizvsvocd=2392500316-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療・・・訪問看護を導入し、利用者の体調管理に努めています。
 介護計画・・・現場職員にとってよりわかりやすく、実践可能な、個々に掘り下げたプランを作成、周知しています。
 職員・・・人員を多めに配置することで手厚いケアを提供しています。
 運営・・・利用者様もスタッフも毎日笑顔で楽しく生活出来るような管理運営を心がけています。主にリスクマネジメントと環境整備に力を入れています。
 面会・・・毎月のお便りで今月の状況と方針をお伝えして個別に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

LINEでつながっている家族は11名となり、他にも2名とメール発信があり、電子ツールを活用したツウエイコミュニケーションが進んでいます。そのおかげで面会の方法を都度で連絡でき、柔軟な対応が出来るメリットも享受しています。マンパワーを増やしてレクリエーションなどプラスαのことに時間をとれるようにするとともに、研修を手厚くして職員育成にも力を注ぐほか、「〇月のお写真」と題した写真中心の便りは、面会制限中で会えないときに「母の元気な姿をみられ安心していきます」と、家族から感謝されています。「こんな表情しているんですね」「友だちもできて笑い合っていて、笑顔の泉なら安心」との評価に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に3か所掲示しており、新人職員にも事業所理念を伝達しています。理念に基づいた教育を行っています。	理念は事業所内に複数掲示することで職員に日々届くとともに、毎回の研修においてもふれていて、浸透を推進しています。声が穏やかになるなどその成果が少しずつ始めており、長々説明してきたかいたと管理者も安堵しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で制限しています。代表者は地域の会議に出席して現状の把握に努めています。	コロナ禍の制限はあるものの、管理者は地域の集会には出席に努め、役割を果たそうとしています。フリージアなど眺めて気持ちが弾む可愛い花を玄関先に植えていて、散歩途中の小さなお子さんとお母さんとしゃがんで匂いをかいて語らう姿もみられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々からの相談に対し入居に繋がらずとも、具体的にどのような選択肢があるのか応えられる範囲で力になれるよう対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で現在は書面でのやり取りとしています。市役所、ご家族、区長、地域包括支援センターに送っています。	ユニットリーダーと管理者とでリーダー会議をおこなう折に2ヶ月分の運営状況を議事録としてまとめ、書面開催として運営推進会議を継続させています。「意見をください」と投げかけてはいますが、声を集めるには及んでいません。	メンバーには、「地域のコロナ対応例を教えてください」など、お願いが質問をおこなうことで、双方向のやりとりとなることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に代わる文書を送付し、事業所の状況報告とコロナウイルス等の対応について相談しています。	コロナのことがあって市の窓口にはなかなか出向けないものの、メール配信は都度確認して情報共有に努めています。またコロナ禍前では2ヶ月に1度会えた運営推進会議に於いて地域包括支援センターとも馴染みとなり、入居者の照会ももらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市町村の指導もあり、玄関の施錠を行っています。2か月に一回身体拘束適正化委員会を開催しております。施錠以外の身体拘束は現状有りません。	身体拘束適正化委員会の議事録ではヒヤリハットに照らした協議もあり、密に取り組んでいる様子が覗えます。また、その内容を回覧した職員一人ひとりに意見を募り、考察の機会をつくるなど、効果的な展開を図っています。	施錠は市の指導とのことですし、リスクのある利用者の存在もあるものとは思いますが、職員の中に「これが普通」という意識が芽生えないよう、定期的に話し合う機会をつくっていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のリーダー会議で虐待に繋がりがねない行為やニュースをピックアップし、具体例を出しどのようにすればよかつたかなどを書面として作成、配布しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要であればいつでも支援できるよう学んだり話し合ったりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に懇切丁寧に説明しております。 また、常日頃から不明な点は聞いていただけよう聞く姿勢を崩さぬよう心がけております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、対応しております。 本部へも届出、書面に残し改善をします。	平均介護度は2.4で、利用者は発語が明瞭な人も多い為、職員は声かけを含みコミュニケーションを以て意向把握を励行しています。またLINEでつながっている家族は11名(他メール2名)となり、ツーウェイコミュニケーションが進んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から個別の面談を行っております。 職員の本音が聞き出せるような対応を心掛けております。最近では訪問看護やシャワーキャリアを導入し職場改善を実施しました	日常業務を精一杯こなす中で「もっとレクを」とのプラス思考の職員がいることは財産で、ケアサービスも向上しつつ職員負担も軽減されるツール購入が見られます。ただし、管理者と介護支援専門員に口々に言ってくるという状況には少々難儀しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの状態、ニーズを把握し向上心を持って働ける職場作りに励んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	動画による研修を行っています。 介護業界や現場の状況に合わせた研修を少なくとも一か月おきに行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は地域の会議に出席して現状の把握に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントは、感染症対策として先方への配慮で現在管理者一人で赴き行っています。入居当日に本人様、ご家族、管理者、ケアマネでサービス担当者会議を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様が安心して暮らせるよう、本人様及びご家族のご意向を第一に個々のケアを行います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人様の状況がグループホーム入居に向いているかどうか判断し、正直にお伝えしています。その上でご家族の選択に従います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長らく利用して下さっている利用者様や長く続けてくれている職員が多く、信頼関係が構築されていると感じます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の不安や負担を軽減できるよう、可能な限りご要望を叶えられるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で現在面会は完全予約制の個別対応を行っております。オンライン面会も並行、継続しています。状況により変動があります。	趣味を続ける人の絵の具や毛糸は家族が届けてくださり、家族との関係継続にも実っています。作品を額に飾り、皆で鑑賞するというのもフロアの寛ぎタイムとして恩恵があり、本人も飲んでいきます。また梅干しやバナナなど食でこれまでの生活を続けている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を席の配置に反映し、共に助け合えるような環境づくりに努めています。常日頃から利用者様同士の関係が良好となるようお声がけを行っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから関係を断ち切ろうとはしません。 退去されたご家族様の相談を受けることがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に本人やご家族に、笑顔の泉でどういった生活をしていきたいのか具体的な聞き取りを行っている。日々の暮らしの中でも新たな意向が示されれば積極的にプランに反映している。	新規入居にあたっては、1ヶ月の仮プランをつくって経過観察のうえ、本プランとして丁寧に取り組んでいますが、アセスメントシートの書き換えはしていません。更新すべき内容をサービス担当者会議の議事録に残し、更に経過記録に細かく記載しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用の経過は入居時のアセスメントで把握するよう努めている。生活歴に関しては回顧療法も兼ねて継続して聞き取りを行っている。特に幼少期や子育て期の情報は語られやすいためよく把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	平常時の1日の寝起きのタイミング、過ごす場所や言動、表情、食事水分量、活動量などを把握するよう努めている。体調不良や様子の変化があれば、現場で働いているスタッフからも報告がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段と違う様子が継続した場合に、ケアの方法を見直すべきかユニットごとのカンファレンスで定期的に話し合っている。プランの変更が必要な場合は、本人家族からも聞き取りを行い、現状に即した介護計画作成を心掛けている。	コロナ禍で家族からの意見収集は難しくなっていますが、必要性の高さによって届けものがあったときなど機会を掴んで介護計画に反映させています。職員は管理者や介護支援専門員から質問しなくても、何かと進言しており、情報には事欠きません。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場スタッフからの気付きや詳細な報告は口頭で受ける場合が多く、文字にすると言葉足らずな印象を受けることも多い。情報共有のためにも詳細で誰にでも状況が分かる記録付けをするよう、促している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共同生活のなかにあっても、マイペースな時間や習慣を両立できるよう配慮することが必要だとミーティングで周知している。コロナ禍で対応が難しい場合もあるが、家族からの個別の相談等にも前向きな答えが出せるよう対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり地域資源の利用は控えめである。外食気分を味わって頂くために弁当をテイクアウトしたり、過密になりにくい公園へ車でドライブに行く等している。最近では王子製紙のバラ園に行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と家族様との連絡を密に取り、適切な医療が受けられるように努めています。	協力医による訪問診療を17名中15名が受診しており、他は在宅の頃からの医師を継続しています。医師には情報提供書を提出のうえ、診療の立ちあいは主に管理者がおこなうとともに記録を残しており、変更点はLINEで家族に届けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の利用を開始し医師、看護師と良好な関係づくり、連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族、かかりつけ医、先方の退院調整師との報連相を密にすることにより利用者様が適したタイミングで帰って来られるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、入所時にお伝えしております。また、段階が進んだ状態となった場合、一歩踏み込んでご家族のご意向を聞かせていただいております。	24時間オンコールの訪問看護との連携もあり、終末期の体制を整えています。「看取りについての事前確認書」に基づき家族には意向確認をとっており、此处での看取りを希望する家族は半数ほど(今は未だわからないという人も有り)います。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リーダーに対して指導を行っています。基本的には管理者または社員が行うことになっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施するようにしています。運営推進会議において、日程をお知らせしています。	年2回の法定訓練は10月実施の予定でしたが11月に変更し、今回は3月を予定しています。火災想定で避難経路の確認、疑似通報訓練など訓練メニューは定着しています。食糧備蓄は3日程度ですがローリングストックが2~3日分常にあります。	全ての職員が訓練メニューの一つひとつを体験、ひいては会得しているかについて、一覧表にまとめるなどして確認していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けだけでなく、入浴時やトイレ利用時にもプライバシーの保護に努めています。	ユニットの職員はほぼ固定ですが、同性介助を望む利用者がいれば1階と2階のユニットで協働体制を整えています。また利用者の個人情報など重要書類は鍵付きロッカーで管理しており、個人情報保護法に準じて運営しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方は、入居者様の判断に任せていますが声掛けや提案をすることで選択肢は提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた職員配置なので、その中で利用者本位となるようなタイムスケジュールにしており、季節に合った活動を取り入れています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様を巻き込んで対応しています。ご家族が希望された場合職員が用意します。選択可能な方には今日着る服を選んでいただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・洗い物は常にお願ひしています。調理については、状況を見つつお手伝いしてもらっております。	「同じメニューを続けない」などの取り決めに前提に旬な物は職員が都度提案し、人気の松花堂弁当をはじめ行事食にも取り組んでいます。また歯科医が体組成計の導入を薦めてくださり、筋肉量のバランスを考慮した栄養指導も始まっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食以外に間食される方への対応や、水筒の準備など、個別に対応しています。食介が必要な方にも全食介にせず残存能力の活用が出来るよう配慮しております。また、水分チェック、カロリーコントロールには特に気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしていただいております。訪問歯科も1週間に1回 訪問、指導してもらっています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力紙パンツは使用しない方法を模索し、ケアで対応するように努めています。また使用している方に関しては汚染回数や尿量や時間帯を鑑みて、パッドの種類、交換頻度を考えています。	立ち上がりの訓練も兼ねているとの考えもあり、排泄行動は生活そのもののリハビリとして大切に考えていますが、年齢もあって3名がベッド上での交換です。できるだけ紙パンツは使用しないよう模索を重ねていて、介護度5でも布パンツでパットという人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と並び、最優先項目として取り組んでいます。医師と相談し、無理なく自然排便が出来るように排泄コントロールしています。また、水分チェックを行い、摂取量の少ない方には好みの飲料を飲んでいただくなど		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに提供しており、体調や行事予定などにより状況を見極めています。本人様の意向により提供出来ないときは時間を置いたり職員を変えたりして対応を試みます。	2人体制の時間帯でも入浴を安全におこなえるようシミュレーションするなど工夫を図り、法定では週2日のところを1日おきの入浴タイムを確保しており、足浴や湯たんぽの提供もおこなっています。湯船に浸かると思わず十八番ができる人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ハード面では、改善できない点が多いですが、巡視の時間を軸として、その方の睡眠を阻害しないように努めております。また、ご自身の意思で眠たい時に寝られる環境になっております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノート、服薬一覧表を活用し、全ての職員が、服薬の変更を事前に知ることができています。飲み忘れや誤薬が起きにくい環境づくりに努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を本人様、家族様から聞き取り、本人様の意欲に応じて環境整備しております。また、意欲が見られた際は積極的に聞き取り、対応しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルスの影響で現在制限しております。希望を把握するよう努め代替策を提案します。	ふんわりとした草姿が愛らしいコキヤやケイトウ、マリーゴールドなど、事業所内でも園芸係が植栽に励んでいます。戸外でも花を求めて散策しています。ただ時世で近場となってしまうので、ガイドがライブ中継するオンラインツアーの視聴も試みしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持してもらっておりません。 任意の額をお小遣いという形でお預かりし、本人様の欲しいもの、必要なものを購入出来るようになっていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様のご意向に沿っており、電話はほとんどの入居者様が活用されておりません。 一部の入居者様が、電話や絵手紙などをやり取りされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはグループホームにとっては特にメインとなる場所なので常に気づかいを行っております。室内の装飾も季節を感じられるようにしております。	掃除はこれまでも丁寧におこなっていた為、消毒を手厚くしたのみでコロナ禍となっても大きく変えてはいたませんが、換気は午前、午後の1回ずつと回数を増やしています。また「少しでも季節感を」と、室内装飾にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちらこちらにソファを配置しており、過ごす場所を特定しておりません。気ままに過ごせるよう、施設内の移動を制限しません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所で用意した物は、極力少なくし、ご本人様の使いなれた物がそのまま使えるような環境です。	絵を描くのが趣味の人は自作に囲まれた生活をしています。他にも仏壇や家族写真など、本人の居心地のよいように持ち込みがありますが、入居中も家族が届けてくだり、例えば「聖書を読みたい」との要望にも応えてもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を最優先した構造の中で一人一人の状態に合わせた環境づくりや対応を常に心掛けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500316		
法人名	(株)イズミ		
事業所名	グループホーム笑顔の泉(Bユニット)		
所在地	愛知県春日井市下条町2丁目1-9		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&Jizvsvocd=2392500316-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療・・・訪問看護を導入し、利用者の体調管理に努めています。 介護計画・・・現場職員にとってよりわかりやすく、実践可能な、個々に掘り下げたプランを作成、周知しています。 職員・・・人員を多めに配置することで手厚いケアを提供しています。 運営・・・利用者様もスタッフも毎日笑顔で楽しく生活出来るような管理運営を心がけています。主にリスクマネジメントと環境整備に力を入れています。 面会・・・毎月のお便りで今月の状況と方針をお伝えして個別に対応しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>LINEでつながっている家族は11名となり、他にも2名とメール発信があり、電子ツールを活用したツウエイコミュニケーションが進んでいます。そのおかげで面会の方法を都度で連絡でき、柔軟な対応が出来るメリットも享受しています。マンパワーを増やしてレクリエーションなどプラスαのことに時間をとれるようにするとともに、研修を手厚くして職員育成にも力を注ぐほか、「〇月のお写真」と題した写真中心の便りは、面会制限中で会えないときに「母の元気な姿をみられ安心していきます」と、家族から感謝されています。「こんな表情しているんですね」「友だちもできて笑い合っていて、笑顔の泉なら安心」との評価に結ばれています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に3か所掲示しており、新人職員にも事業所理念を伝達しています。理念に基づいた教育を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で制限しています。代表者は地域の会議に出席して現状の把握に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々からの相談に対し入居に繋がらずとも、具体的にどのような選択肢があるのか応えられる範囲で力になれるよう対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で現在は書面でのやり取りとしています。市役所、ご家族、区長、地域包括支援センターに送っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に代わる文書を送付し、事業所の状況報告とコロナウイルス等の対応について相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市町村の指導もあり、玄関の施錠を行っています。2か月に一回身体拘束適正化委員会を開催しております。施錠以外の身体拘束は現状有りません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のリーダー会議で虐待に繋がりがかねない行為やニュースをピックアップし具体例を出しどのようにすればよかったかなどを書面として作成、配布しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要であればいつでも支援できるよう学んだり話し合ったりしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に懇切丁寧に説明しております。 また、常日頃から不明な点は聞いていただけよう聞く姿勢を崩さぬよう心がけております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、対応しております。 本部へも届出、書面に残し改善をします。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から個別の面談を行っております。 職員の本音が聞き出せるような対応を心掛けております。最近では訪問看護やシャワーキャリーを導入し職場改善を実施しました		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの状態、ニーズを把握し向上心を持って働ける職場作りに励んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	動画による研修を行っています。 介護業界や現場の状況に合わせた研修を少なくとも一か月おきに行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は地域の会議に出席して現状の把握に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントは、感染症対策として先方への配慮で現在管理者一人で赴き行っています。入居当日に本人様、ご家族、管理者、ケアマネでサービス担当者会議を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様が安心して暮らせるよう、本人様及びご家族のご意向を第一に個々のケアを行います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人様の状況がグループホーム入居に向いているかどうか判断し、正直にお伝えしています。その上でご家族の選択に従います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長らく利用してくださっている利用者様や長く続けてくれている職員が多く、信頼関係が構築されていると感じます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の不安や負担を軽減できるよう、可能な限りご要望を叶えられるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で現在面会は完全予約制の個別対応を行っております。オンライン面会も並行、継続しています。状況により変動があります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を席の配置に反映し、共に助け合えるような環境づくりに努めています。 常日頃から利用者様同士の関係が良好となるようお声がけを行っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから関係を断ち切ろうとはしません。 退去されたご家族様の相談を受けることがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に本人やご家族に、笑顔の泉でどういった生活をしていきたいのか具体的な聞き取りを行っている。日々の暮らしの中でも新たな意向が示されれば積極的にプランに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用の経過は入居時のアセスメントで把握するよう努めている。生活歴に関しては回顧療法も兼ねて継続して聞き取りを行っている。特に幼少期や子育て期の情報は語られやすいためよく把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	平常時の1日の寝起きのタイミング、過ごす場所や言動、表情、食事水分量、活動量などを把握するよう努めている。体調不良や様子の変化があれば、現場で働いているスタッフからも報告がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段と違う様子が継続した場合に、ケアの方法を見直すべきかユニットごとのカンファレンスで定期的に話し合っている。プランの変更が必要な場合は、本人家族からも聞き取りを行い、現状に即した介護計画作成を心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場スタッフからの気付きや詳細な報告は口頭で受ける場合が多く、文字にすると言葉足らずな印象を受けることも多い。情報共有のためにも詳細で誰にでも状況が分かる記録付けをするよう、促している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共同生活のなかにあっても、マイペースな時間や習慣を両立できるよう配慮することが必要だとミーティングで周知している。コロナ禍で対応が難しい場合もあるが、家族からの個別の相談等にも前向きな答えが出せるよう対応している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり地域資源の利用は控えめである。外食気分を味わって頂くために弁当をテイクアウトしたり、過密になりにくい公園へ車でドライブに行く等している。最近では王子製紙のバラ園に行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と家族様との連絡を密に取り、適切な医療が受けられるように努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の利用を開始し医師、看護師と良好な関係づくり、連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族、かかりつけ医、先方の退院調整師との報連相を密にすることにより利用者様が適したタイミングで帰って来られるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですでできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、入所時にお伝えしております。また、段階が進んだ状態となった場合、一歩踏み込んでご家族のご意向を聞かせていただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リーダーに対して指導を行っています。基本的には管理者または社員が行うことになっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施するようにしています。運営推進会議において、日程をお知らせしています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けだけでなく、入浴時やトイレ利用時にもプライバシーの保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方は、入居者様の判断に任せていますが声掛けや提案をすることで選択肢は提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた職員配置なので、その中で利用者本位となるようなタイムスケジュールにしており、季節に合った活動を取り入れています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様を巻き込んで対応しています。ご家族が希望された場合職員が用意します。選択可能な方には今日着る服を選んでいただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・洗い物は常にお願ひしています。調理については、状況を見つつお手伝いしてもらっております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食以外に間食される方への対応や、水筒の準備など、個別に対応しています。食介が必要な方にも全食介にせず残存能力の活用が出来るよう配慮しております。また、水分チェック、カロリーコントロールには特に気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしていただいております。訪問歯科も1週間に1回 訪問、指導してもらっています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力紙パンツは使用しない方法を模索し、ケアで対応するように努めています。また使用している方に関しては汚染回数や尿量や時間帯を鑑みて、パッドの種類、交換頻度を考えています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と並び、最優先項目として取り組んでいます。医師と相談し、無理なく自然排便が出来るように排泄コントロールしています。また、水分チェックを行い、摂取量の少ない方には好みの飲料を飲んでいただくなど1日おきに提供しており、体調や行事予定などにより状況を見極めています。本人様の意向により提供出来ないときは時間を置いたり職員を変えたりして対応を試みます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ハード面では、改善できない点が多いですが、巡視の時間を軸として、その方の睡眠を阻害しないように努めております。また、ご自身の意思で眠たい時に寝られる環境になっております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りノート、服薬一覧表を活用し、全ての職員が、服薬の変更を事前に知ることができています。飲み忘れや誤薬が起きにくい環境づくりに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の趣味を本人様、家族様から聞き取り、本人様の意欲に応じて環境整備しております。また、意欲が見られた際は積極的に聞き取り、対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルスの影響で現在制限しております。希望を把握するよう努め代替策を提案します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持してもらっていません。 任意の額をお小遣いという形でお預かりし、本人様の欲しいもの、必要なものを購入出来るようになっていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様のご意向に沿っており、電話はほとんどの入居者様が活用されておられません。 一部の入居者様が、電話や絵手紙などをやり取りされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはグループホームにとっては特にメインとなる場所なので常に気づかいを行っております。室内の装飾も季節を感じられるようにしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちらこちらにソファを配置しており、過ごす場所を特定しておりません。気ままに過ごせるよう、施設内の移動を制限しません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所で用意した物は、極力少なくし、ご本人様の使いなれた物がそのまま使えるような環境です。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を最優先した構造の中で一人一人の状態に合わせた環境づくりや対応を常に心掛けています。		